


1 不具合現象：不陸・凹凸（へこみ）

状況写真



No.	発生原因	発生要因			対策（予防）	処置方法
		材料	施工	現場条件		
1	使用期限切れ 材料の使用	○			製造業者の使用期限を厳守する。	凸部はサンダー、ポリッシャーなどで研磨する。 凹部は薄塗補修する。  打継部は、すり合わせ補修、ポリッシャーなどで研磨する。
2	水漏れ等で固結した材料の使用	○			材料の運搬、保管時に水に濡れないようにする。 湿気の少ない屋内でパレット、棧木の上に置く。 直射日光を避け、40℃以下の環境で貯蔵する。	
3	漏れ止め不良		○		JIS A 6916「建築用下地調整塗材」適合補修材など製造業者指定の補修材を使用し、開口部をしっかりと塞ぐ。	
4	あたり不良		○		水準器、レーザー等を使用し、1~3mピッチであたりを設ける。	
5	練練水不足、過多		○		製造業者指定の水量を厳守する。	
6	表面均し不良		○		コテ、トンボ等を使い、あたりを目安に平滑に均す（均し過ぎない）。	
7	練混ぜ不良		○		製造業者指定の器具および攪拌時間を厳守する。	
8	流し込み不良		○		1ヶ所に流し込まず、移動しながら、墨およびあたりに合わせて均一に流し込む。	
9	施工厚不良		○		製造業者指定の施工厚を厳守する。	
10	打継部		○		必要に応じて補修する。	
11	アルミ製の器具を使用		○		ハンドミキサー、練練容器等にアルミ製のものを使用しない。	
12	極端な下地の 段差			○	凸部ははつり取り、凹部は補修材で付け送りする。	
13	通風			○	開口部を塞ぐ。	
14	急結			○	極端に温度の高い水を使用しない。材料に直射日光を当てない。スラリーの極端な温度	

2		不具合現象：浮き				
状況写真						
						
No.	発生原因	発生要因			対策（予防）	処置方法
		材料	施工	現場条件		
1	プライマーの品質不良	○			製造業者指定の使用期限を厳守する。冷暗所に保管する。開封後は速やかに使い切る。	エポキシ樹脂注入、しごき、はつり、再施工。
2	プライマーの塗布不良		○		希釈倍率、塗布量、塗布方法は製造者の施工要領を厳守する。	
3	プライマーの乾燥不足		○		希釈倍率、塗布量、塗布方法は製造者の施工要領を厳守する。部分的な未乾燥部はウエスなどで拭き取る。	
4	プライマー塗布後の汚れ		○		塗布後は入室しない。汚れた場合は、汚れを拭き取る。状況によっては、再塗布を考慮する。	
5	下地の清掃不足		○		埃、粉塵などの清掃を徹底する。	
6	施工厚不良		○		凸部ははつり取り、凹部は補修材などで付け送りする。	
7	特定のコンクリート養生剤使用			○	事前に床コンクリート仕上げ業者に確認する。	
8	高強度コンクリート使用			○	事前に確認する。場合によっては事前テストで接着強度を確認する。	
9	コンクリートの養生不足			○	コンクリートの養生期間は基本1ヶ月以上を確保する。	
10	雨打たれ、レイタンズ			○	ポリッシャーなどで脆弱部を除去する。	
11	過度な表面押え（機械コテなど）			○	下地コンクリート表面は木ゴテでむら取り+金ゴテ1回押させ程度に仕上げる。事前に接着強度を確認した上で、強度不足の場合は、目粗しを必ず実施する。また、プライマーの吸水状態を確認する。	
12	弱材齢補修部			○	セメントモルタル系補修材の場合、原則として夏期7日以上、冬期14日以上を確保する。	

13	油分のしみ込み			○	しみ込んでいる部分を全てはつり取る。	
14	下地表面の異物 (パテ、ペンキなど)			○	スクレーパーなどを用いてきれいに取り除く。	
15	躯体の振動			○	できるだけSL材に振動を与えないようにする (特に弱材齢時、S造、デッキプレートは要注意)	

3

不具合現象：ひび割れ

状況写真



No.	発生原因	発生要因			対策（予防）	処置方法
		材料	施工	現場条件		
1	使用期限切れ 材料の使用	○			製造業者指定の使用期限を厳守する。	エポキシ樹脂注入、しごき、はつり、再施工。
2	漏れ止め不良		○		JIS A 6916「建築用下地調整塗材」適合補修材など製造業者指定の補修材を使用し、開口部をしっかりと塞ぐ。	
3	混練水不足、 過多		○		希釈倍率、塗布量、塗布方法は製造者の施工要領を厳守する。部分的な未乾燥部はウエスなどで拭き取る。	
4	練混ぜ不良		○		製造業者指定の器具および攪拌時間を厳守する。	
5	極端な下地の 段差		○		凸部ははつり取り、凹部は補修材で付け送りする。	
6	通風		○		開口部を塞ぐ。	
7	直射日光			○	直射日光を当てない。	
8	躯体の振動			○	できるだけSL材に振動を与えないようにする（特に弱材齢時、S造、デッキプレートは要注意）	
9	下地のひび割れ			○	コンクリートの養生期間は基本1ヶ月以上を確保する。	
10	1ヶ月以上仕上げ材を施工しない			○	ポリッシャーなどで脆弱部を除去する。	
11	施工厚不良			○	下地コンクリート表面は木ゴテでむら取り+金ゴテ1回押させ程度に仕上げる。事前に接着強度を確認した上で、強度不足の場合は、目粗しを必ず実施する。また、プライマーの吸水状態を確認する。	



No.	発生原因	発生要因			対策（予防）	処置方法
		材料	施工	現場条件		
1	プライマーの品質不良	○			製造業者指定の使用期限を厳守する。冷暗所に保管する。開封後は速やかに使い切る。	ポリッシャー、コテ等で研磨。 必要に応じて薄塗補修。
2	プライマーの塗布不良		○		希釈倍率、塗布量、塗布方法は製造業者の施工要領を厳守する。	
3	プライマーの乾燥不足		○		希釈倍率、塗布量、塗布方法は製造業者の施工要領を厳守する。部分的な未乾燥部はウエスなどで拭き取る。	
4	練混ぜ不良		○		製造業者指定の器具および攪拌時間を厳守する。	
5	混練水不足、過多		○		製造業者指定の水量を厳守する。水平な所で計量する。	
6	アルミ製の器具を使用		○		ハンドミキサー、混練容器等にアルミ製のものを使用しない。	
7	下地コン表層の押え不足			○	下地コンクリート表面は木ゴテでむら取り+金ゴテ1回押させ程度に仕上げる。事前に接着強度を確認した上で、強度不足の場合は、目粗しを必ず実施する。また、プライマーの吸水状態を確認する。	
8	雨打たれ、レイトンス			○	ポリッシャーなどで脆弱部を除去する。	

5 不具合現象：白華・白化、粉化、脆弱表層、表層剥離、硬化遅延

状況写真



No.	発生原因	発生要因			対策（予防）	処置方法
		材料	施工	現場条件		
1	使用期限切れ 材料の使用	○			製造業者指定の使用期限を厳守する。	ポリッシャーで研磨。 表面強化剤を塗布。 吸水調整材を塗布。
2	混練水の過多		○		製造者指定の水量を厳守する。	
3	表面均し不良 (過多)		○		コテ、トンボ等を使用し、あたりを目安に平滑に均す（均し過ぎない）。	
4	練混ぜ不良		○		製造業者指定の器具および攪拌時間を厳守する。	
5	プライマーの 乾燥不足		○		希釈倍率、塗布量、塗布方法は製造業者の要領を厳守する。部分的な未乾燥部はウエス等で拭き取る。	
6	防凍剤、防水材等、 他の材料添加		○		水以外の他の材料は添加しない。	
7	施工厚不良			○	製造業者指定の施工厚を厳守する。	
8	5℃以下の低温環境			○	室温が5℃以下の場合は採暖する。日中の平均気温が5℃以下の施工は控える。	
9	材料の温度低下			○	材料は適正に保管する。極度に水温が低い場合は、投げ込みヒーター等で加温して使用する。	
10	雨水等の侵入			○	雨水等の水が侵入しないように漏水箇所を、開口部は塞ぐ。	

6 不具合現象：しわ（皮張り破れ）

状況写真



No.	発生原因	発生要因			対策（予防）	処置方法
		材料	施工	現場条件		
1	あたり不良		○		水準器、レーザー等を使用し1～3mピッチであたりをつける。	ポリッシャー、コテ等で研磨。必要に応じて薄塗り補修。
2	表面均し不良		○		コテ、トンボ等を使い、あたりを目安に平滑に均す（均し過ぎない）。	
3	流し込み不良		○		1ヶ所に流し込まず、移動しながら、墨およびあたりに合わせて均一に流し込む。	
4	通風			○	開口部を塞ぐ。	
5	躯体の振動			○	できるだけSL材に振動を与えない（特に若材齢時）。	